

和名倉百年の森

2020
10.1

40号

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

<創立20周年記念 百年の森づくり活動報告>

巻頭言……………1 / 活動報告 和名倉山……………2-5 / 長瀬宝登山……………6-9
福島県田村市……………10-13 / 令和2年度 第13回通常総会……………13
宝登山下刈活動報告……………13-15

新型コロナウイルスと森林活動

理事長 小林 公彦

昨年12月に中国の武漢市から流行した新型コロナウイルスは、今年2月ダイヤモンドプリンセス号クルーズ船の感染騒ぎから急に慌ただしくなり、新型コロナウイルスに関する情報が毎日のように報道されています。

9月2日現在、世界で2600万人の感染者、死者は86万人を超えています。日本では感染者は7万人を超え、1365人の方が死亡、埼玉県内は4千人の方が感染し、90人の方が亡くなっています。大変恐ろしいことです。

百年の森づくりの会は令和2年度に創立20年の節目の年を迎え、感謝の気持ちを込めた活動をしたと思うのですが、新型コロナウイルスの感染防止のため残念ながら活動を中止せざるを得ない状況になりました。

4月には長瀬宝登山で植林した山ザクラを観ていただきながら感謝の集いを開催する予定でした。また、例年5月に行う長瀬宝登山の下草刈りと和名倉山植林ワークも中止といたしました。そして、令和2年度第13回通常総会は三密を防ぐことから、会員皆様には参加を見合わせていただき、必要最小限の開催とし、同時開催の記念講演会も中止にいたしました。

そんな中ですが、長瀬宝登山の下草刈

りの活動は、三密の影響が少ないということ、6月から活動を再開し予定通り3回活動を実施させていただきました。毎回暑い中での草刈りでしたが、距離を2m以上保ちながら作業を行い、おかげさまで無事終了することができました。

新型コロナウイルスのパンデミックの原因は「人類が森林を破壊したから」と問題提起している方がおられます。イギリスの霊長類学者ジェーン・グールド氏でチンパンジーの保護活動を長年取り組んでいる方です。

「新型コロナウイルスの感染拡大は、人類が自然と動物を軽視した結果だ。人類が森林を破壊し続けたために、さまざまな種の動物が密になって生きざるを得なくなり、異なる種の動物の間でウイルスが広がりやすくなった。森林破壊により人間と動物が近い場所で生きることが増えた。それにより、ウイルスが人間にも広がりやすくなってしまった。」と語っています。

今回のような、感染症の危険性は、ずっと前から指摘されていたが、人間は耳を傾けなかった。エボラ出血熱やSARS（重症急性呼吸器症候群）の経験から全く学んでいないと指摘しています。

また、ある研究で自然界には人間がこれまで触れたことのないウイルスや病気が

がたくさん存在します。野生動物の生息地が破壊されると、すみかを奪われた動物たちが人間と隣り合わせになり、接触する機会が増えます。これが原因で野生動物が持っているウイルスや病気が人間に移ります。新型コロナウイルスもそんな「動物由来感染症」だと言われています。

ジェーン氏は、メッセージとして、「わたしたち一人一人が毎日、地球に影響を及ぼしているということ。物を買うときには、その商品がどのように作られたのか、環境に害を及ぼしていないか、動物に残酷ではないか、一人一人の姿勢が問われている。あなたには果たすべき役割がある。あなたは自分の行動で世界を変えることができる。」と言っています。

森林面積は、ここ17年間で着実に減少しています。ニパウイルス・ジカ熱・エボラ出血熱など、新たな感染症の流行のうち31%は森林破壊に関係していると言われています。

感染症が森林破壊と関係するのであれば、私たちがするべきことは自然を取り戻すことであると感じています。

百年の森づくりの会の植林活動は地道な活動ですが、これからも続けていく意義が大いにあると思えました。

和名倉百年の森づくり事業

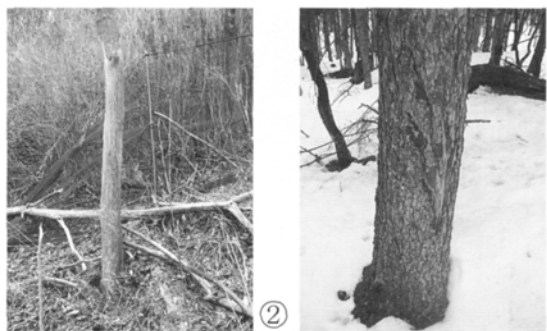
報告

和名倉山森づくり事業担当 高岡正彦

和名倉山は、64年（昭和39年）と69年（昭和44年）に山火事が発生し、多くの樹木が焼失しました。その跡には成長の速いカラマツを植林するなど、森の復興が図られました。同時期、林業の衰退で山での仕事も少なくなり往来が激減し、多くのルートが2m以上のスズタケで覆われ藪の山となってしまいました。

そのような和名倉山を以前のような水を育む山に復元するために、97年埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会が活動を始めました。その後、NPO法人百年の森づくりの会として事業を拡大しています。00年までに失われた道の復元を行ない、01年には樹木の生長が遅いところに、和名倉山の在来種であるブナの苗を植林し始めました。植林を始めると、鹿による被害に悩まされ、植林よりも、現有樹木を守るほうが先と考えました。現在は現有樹木に鹿よけネット巻く作業が主になっています。03年には旧大滝村村有林の管理小屋だった仁田小屋を改修しこの事業のベースキャンプとしています。この小屋は会員たちの総力で、ログハウス風に作り上げました。

和名倉山植林ワーク



和名倉山植林ワークは、当初山火事後に和名倉山の在来種であるブナを植える仕事を中心であったが、そのたびに、鹿の被害を受けていた。

①は鹿が角を磨くためか、マーキングのためか、刻みが入っている。②は皮を剥ぎとられた木。ネットを張ったが、倒木などですぐに用をなさなくなる。

③は雪と風でネットを倒され、獣が自由に行きかっている獣道。

鹿よけネットは、④のように広くネットで覆う方法と⑤のように1本1本ネットを巻く方法の2種類を行っている。



④の広く覆う方法で、実生苗を保護できると考えたが、風雪で1年も持たない。今では⑤の幹にネットを巻く方法を行っている。



⑥



それでも、2001年からブナを中心に植林の機会をつくってきた。当初は根に土をつけたまま担ぎ上げていたが、冷温ブナで運べるのが分かり、だいぶ楽に苗を植林地に運ぶことができるようになった。



長瀬の畑で成長させたブナの苗を、前年に掘り起こし、大型冷蔵庫で冷温保存して、翌年に植林した。活着率はとてもよく9割は活着したとみられる。⑥は2001年に初めて植林したブナの木である。1本だけがここまで成長している。残りは、鹿等のえさになってしまったと思われる。



10年前は、頻繁に警戒を告げる鹿の鳴き声が、頻繁に聞こえたのだが、最近はめったに鳴き声を耳にしない。しかし、糞の様子を見ると少なくなっていないようである。また、カモシカに出会う機会が増えてきた。多くの動物が生活できる環境がもどってきている。

しかし、20年前から、鳥の鳴き声は少ないように思っている。もっと広葉落葉樹のもりになって、餌となる虫が増えると期待できると思っている。



和名倉山植林ワークは「仁田小屋」をベースキャンプとして行っている。2003年に当時の故内藤会長のもと作り上げられたものである。岩盤の上に建てられたもので、頑丈なつくりである。小屋から開けた南方を見渡せば、正面に雲取山がある。これまでも、これからも、この仁田小屋は和名倉山の重要ポイントです。

和名倉山・周辺関連事業



「ブナの地域的遺産文化の調査」

2011・11 埼玉県農林総合センター（原口氏）の依頼で和名倉山、両神山でブナの調査のお手伝いをした。



「みどりの再生に取り組み県立学校パワーアップ事業」

2015・6 三峯神社内の三峰公園に県立みどり高校がブナを植林。百年の森づくりの会からブナを提供。

「岳人の家管理」「自然観察教室」



旧大滝小学校三峰分校を2009年から借用し、三峯神社での植林活動をはじめ、2012には埼玉岳連と協力して自然観察教室を行った。本会ではこの分校を「岳人の家」と称している。

「鹿忌避剤塗付」



2017鹿忌避剤が手に入ったので、シカの食害防止のため、塗付けを試みた。

太陽寺植林事業



2002・4・29（みどりの日）

大陽寺敷地内0・4ha（県貸借地）に300本のブナ・ヤマザクラ・栗・ミズナラ・コナラ・トチノ木を植樹。100名参加。

以後、下草刈り・つる切りなどを行い、観察してきました。

2014年に十分に苗が育ったのを確認し、60本にネットを巻き、ブナ5本加植。



以上で、定例事業を終了とさせていただきます。

「和名倉山百年の森づくり事業」沿革

1997.5/3~4	二瀬ダム~和名倉山~東仙波山 (焼失跡調査)
1997.8/25	大洞橋~仁田小屋沢~松葉沢(大滝村担当者と調査)
1997.10/25~26	第1回ワーク 松葉沢1000~1250(作業道整備)
2000.5/27~28	第6回ワーク 松葉沢~カラマツ広場1776(作業道整備)
2000.10/27~28	第7回ワーク 仁田小屋沢~松葉沢作業小屋~仁田小屋沢の頭~カラマツ広場~山頂(植栽地偵察)
2001.2/12	鮫沢橋付近林道大規模崩落
2001.6/8~10	第8回ワーク 一步の森1500(ブナ13本《東大影森演習林》植林)
2001.10/26~27	第9回ワーク 鮫沢橋~仁田小屋沢~松葉沢作業小屋~一步の森~和名倉山山頂~二瀬尾根
2002.6/7~8	第10回ワーク セカンドフォレスト1560(ブナ13本)
2002.7/6~7	仁田小屋改修工事開始
2003.11/23~24	新仁田小屋落成式
2004.5/28~30	第14回ワーク 仁田小屋~和名倉山~東仙波山~惣小屋沢~仁田小屋
2005.5/28~29	第16回ワーク 一步の森(冷温保存ブナ25本加植)
2007.5/19~20	第20回ワーク 一步の森(ブナ200本ミズナラ9本 加植)
2008.10/31~3	フォレストベンチ工事
2009.5/23~24	第24回ワーク 鹿よけネット修復 ネット巻き
2010.5/22~23	第26回ワーク 冷温保存ブナ100本加植
2011.11/5~6	第29回ワーク 「ブナの地域的遺伝文化の調査」
2014.2/15	秩父地方豪雪 雲取林道に雪の壁2m
2014.5/24~25	第34回ワーク 仁田小屋~和名倉山~東仙波山~大洞林道
2016.5/28~29	第38回ワーク 仁田小屋整備 ネット巻き ネット回収
2017.11/18~19	第41回ワーク 犬ブナ平~仁田小屋沢の頭 鹿よけ忌避剤塗付
2020.3	第46回ワーク 新型コロナ感染予防のため自粛 中止

「太陽寺植林事業」沿革

2002.4/29	荒川源流森づくり体験 太陽寺敷地内(0.4ha)(県借用地) ブナ・ヤマザクラ・栗・ミズナラ・コナラ・トチノ木を300本植樹 100名参加
2002.9/29	太陽寺植林地観察会 下草刈り・芋煮会 67名参加
2003.7/27	太陽寺植林地観察会 下草刈り 78名参加
2004.7/25	太陽寺植林地観察会 下草刈り 44名参加
2005.7/23	太陽寺植林地観察会 下草刈り 37名参加
2010	太陽寺植林地観察会 ネット巻き
2014	太陽寺植林地観察会 ブナ5本加植

長瀬宝登山における百年の森づくり

常務理事 野澤 和雄

百年の森づくりの会 10周年企画（5番目の拠点）として、長瀬町の宝登山（ほどさん）に2007年10月28日参加者455名をもって落葉広葉樹（櫻、楓、栗、子檜、躑躅）850本の植樹を執り行いました。

連帯主催者である長瀬町は、宝登山を「春夏秋冬花のある山」「観光埼玉の先導役を担える山」とする【四季の丘構想】を掲げ、既に蠟梅の植林が冬に観光客を誘致する呼び水となっており、更にその強化策として今回の植林が位置付けられました。

そして植樹以前の2006年2月に、横浜国立大学 宮脇昭先生の講演会【植林の輪を長瀬から世界へ広めよう】が宝登山神社主催で行われ、今回の町民参加をおおいに促し、園児から小中学生、老人クラブとたくさんの方々が参加しました。



＊後援団体が名実共に動いて宝登山の頂部が蜜蜂のダンゴのようでした＊

共催：長瀬町商工会、埼玉新聞社

後援：埼玉県秩父農林振興センター、(社)国土緑化推進機構、(社)埼玉県緑化推進委員会
 (財)サイサン環境保全基金、秩父鉄道(株)、宝登興業(株)、長瀬町観光協会
 皆野長瀬ロータリークラブ、秩父ライオンズクラブ、国立大学法人 埼玉大学
 三井住友海上火災保健(株)、NHKさいたま放送局、テレビ埼玉、寶登山神社

宝登山の林相は、南麓の金崎神社周辺にアラカシ群落があり、アラカシ自然林の断片的な残存部と考えられます。宝登山神社本殿 南北の尾根上には、モミが林立して社殿を見守っており、また宝登山 東南支脈の金崎十二天社周辺にもモミ群落があり、山頂を覆っています。山腹の大半はクヌギ、コナラです。

植栽地は88年生のヒノキ伐採跡地ですが、ヒノキ以前はコナラ林であったと考えられます。

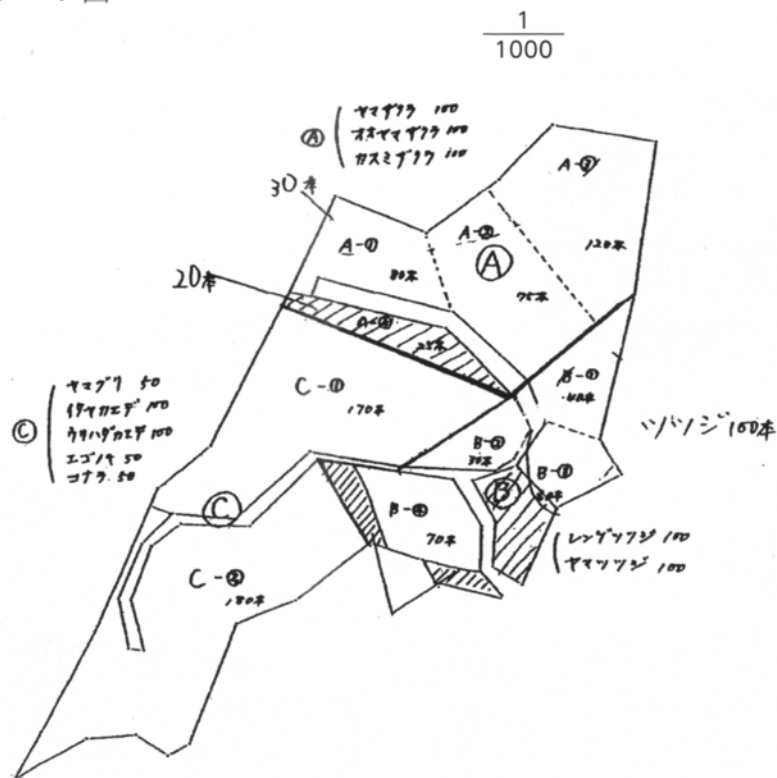
「クリ・コナラ群落の里山林相」を再現することを目指し、次のような計画となりました。

高木層：コナラ、クリ、クヌギ、ヤマザクラ、アラカシ、リョウブ、ヤマハンノキ 他

低木層：ヤマツツジ、ミツバツツジ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ガマズミ、イボタノキ 他

草本層：ヤブラン、ジャノヒゲ

長瀬宝登山百年の森づくり植樹祭
植栽イメージ図



活動の記録

活動日	作業内容	本数	参加人数
2007年10月28日	植林：桜、楓、グリ、コナラ、ツツジ	850本	455名
2008年4月6日	植林：小桜、コナラ、カエデ	250本	
2009年8月23日	下刈り		44名
2010年8月22日	下刈り		47名
2011年8月21日	植林：ブナ	80本	★200名
2012年8月19日	植林：ブナ		★158名
2013年8月18日	植林：シラカシ、ブナ	69本	107名
2014年8月24日	下刈り		90名
2015年8月23日	下刈り		96名
2016年4月3日	植林・ツツジ	160本	21名
2016年8月21日	下刈り		70名
2017年8月20日	下刈り		80名
2018年8月18日	下刈り		50名
2019年8月1日	下刈り		44名
2020年6月21日	下刈り、ツル除去 *コロナの為会員のみで作業		4名
2020年8月23日	下刈り *コロナの為会員のみで作業		11名

★県立いすみ高校の参加者多数

* 三井住友海上火災様及び内藤保険事務所様には、毎年参加していただいております。

活動の様子

■植林初期



2007年10月28日
ヒノキを伐採したあとに、一家揃って
櫻を植えました。



2008年4月6日 250本の捕植作業 クリ、カエデ、コナラを植えています。

■下刈り作業



2020年8月23日 カヤの株と格闘



2008年6月 下刈り作業



2008年6月22日 楽しい下刈でした。「かぶれた！」との声も。漆かな…

■ A植栽地近影



植栽地は画面中央から左上 櫻は葉が散り、グレーになっている。

コナラ、カエデは樹高が電柱と同じ位になりました。高木はもう大丈夫！

2019年11月中旬撮影：Copyright・熊高森づくりの会 2020

2012年 この年から栗のイガが目立つようになりました。

2018年 高木層は、樹高が6～7Mほどになり、根がしっかり岩にくいついたのが分かります

2020年 3月には90本のブナと27本の檜、3本のナラを捕植し、檜を除いて100%根付いています。コロナの影響により人数を絞って6、7、8月と下刈りを実行、高木は順調に成長しているので、今後は、高木との相性を勘案し、低木層と草木層の種類を選定し、植林していきたいと思います。

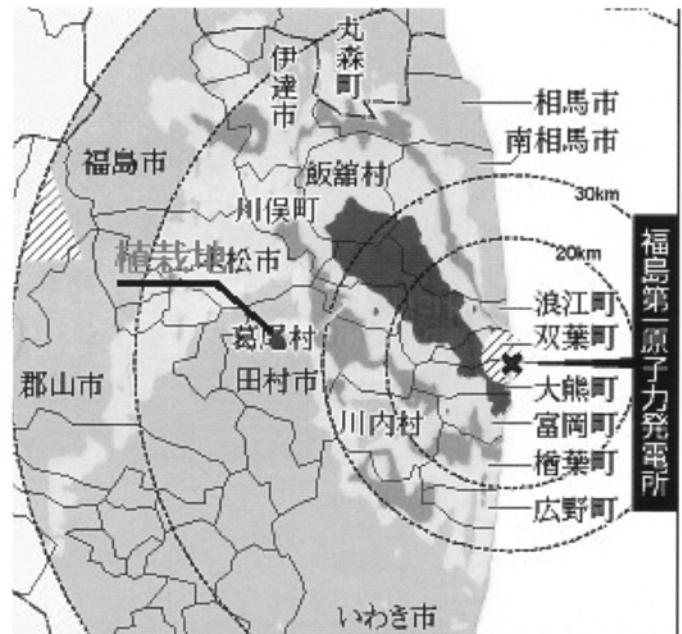
福島県田村市における百年の森づくり

副理事長 守谷 裕之

新聞を読んでいたら福島県田村市で伐採が試みられた。福島原発事故の検証に当たって県の予算が付いた。伐採する前には檜の原木がありシイタケの櫓木に使われていた。放射能を浴びた木からはシイタケ栽培はできなので実験的に伐採が進められた。記事には担当の田村森林組合森林整備課の吉田徳義さんの名前が書いてあり直接連絡を取る事ができた。「百年の森づくりの苗畑があり、育てた苗木を植林したいのですが…」直ぐにOKがもらえた。会に提案をして了承を得る事ができ、小林理事長と小室常務理事とで視察に行くことになった。実際に行ってみると檜の大木が伐採されて孫生えが出ていた。他にも自生の木々が育ち始めている。秩父で育てた苗木、幼木を植えても負けて育たないだろうという話も出た。森林組合の人がこの山の頂上辺りを放射能雲の縁が通過したと話してくれた。森の除染は行われないので視察に行った時に一部伐採した木は積んでありブルーシートに覆われていた。それが所々にあった。この山林は個人主の所有地で管理を田村森林組合お願いしている。

秩父の苗畑には数えきれない程の苗木から幼木に育った木がある。森づくりとはいうものの植える所がないのが現状で行き先がなくドンドン大きくなるばかりでした。根が大きくなりすぎてポット打ち破ったものや、高さ2mの屋根を突き抜けたものまでありました。

苗木はイヌブナ440本、ナラ・ミズナラ540本、カエデ60本、クヌギ30本、17年生ブナ280本、合計で1350本を運び、植林するという一大事業となった。



秩父の苗畑から一日掛かって4トントラック2台に苗木1350本を積み込む。

2013年12月8～9日 秩父の苗畑から福島田村市での仮植作業

4月の芽吹きの際に植樹する為には一気に運ぶとなると時間が足りないので仮植という提案があった。またその土地の気候にも慣れさせる為にも良いという理由もある。仮植地は植樹する場所に近く地主さんの畑となった。田村森林組合の森林整備課長さんの吉田さんにユンボを手配してもらい作業を進めた。17年物のブナが200本有りそれは小型のユンボウで掘り起こし土を被せた。



2014年4月6日 植林当日

当日はバス一台をチャーターし、会員を始め、サポーターズクラブ、知人、友人に声を掛けて40名集まった。事前準備の為9名が前日に宿に泊まった。森林組合の人も応援に来てくれた。仮植した畑から軽トラで10分ぐらいの所に植栽地がある。全く人手が足りない。大きく育った幼木はたつぷりと土が付き重い。一つの籠には10鉢は入っている。その重量は20kgあるだろう。それを奥の植栽地まで運ぶには限界を感じた。そうしたら、森林組合のとせば良いと教えてくれた。素人集団の百年の森づくりが企画したとは言え田村森林組合の力がなかったら到底できるものではなかった。早朝は青空も見られたが天候は不安定で午後から突然雪が降り始めた。



小型のユンボウで17年もののブナを埋めるための大きな穴を掘ってもらう



会員によるブナの植栽



一番奥のエリアで植樹するサポーターズクラブ



雪が降り始め事故が心配と早めに切り上げる。



半分以上は時間がなく植えられなかった。
その後森林組合の人達が一鉢ずつ丁寧に
植え、竹の棒とピンクのリボンを付けて
くれました。

その後視察を続ける



植林したその年の冬。
雪が積もり凜として立つブナ。
(2014年冬 田村森林組合員の撮影)

2018年7月5日 視察



その後、森づくりの会としては
管理作業はしていません。
毎年、一度は何人かで視察を続けている。
高さ 420 cm、胸囲 17.5 cm

2020年9月6日 視察

今年台風10号の影響もさほどなく無事終える事が出来ました。全く森は放置状態、地主さんの渡邊さんとお話が出来ました。密生状態で木々は上へ上へと光を求めて伸びていました。地面には光は当たらず細い木々が草の様に出ていました。奥の斜面に植えたポット苗のブナも2メートル近く育っていました。



北斜面に植えたブナは自生の木にも負けず頭が出ていた。

このブナが一番大きいと思われる。毎回高さを測定していた。今年は6mを超える高さとなり測定不能となった。胴囲は22.5cm2年間で5cmも太くなったことになる。

<放射線量について>

田村森林組合の前に常設されているモニタリングポストの過去の8年間のデータ

田村森林組合前の
モニタリングポスト

年度	μSv/h
2012	0.09
2013	0.10
2014	
2015	
2016	
2017	0.08
2018	0.07
2019	×
2020	0.07

私の簡易放射線量測定器との比較

川口の家 …… 0.04 μSv/h

ブナの木の前 …… 0.15~0.20 μSv/h



全く森は放置状態、地主さんの渡邊さんとお話が出来ました。奥には40~50年もの杉があるがなかなか売れない。植林した後も全く手を入れていない。密生状態で木々は上へ上へと光を求めて伸びていました。地面には光は当たらず細い木々が草の様に出ていました。この状態が続けば弱い木と強い木との差が出て来ると考えられます。奥の斜面に植えたポット苗のブナも2メートル近く育っているのを発見しました。光があまり差し込まない所でモミジが弱々しいですが育っていました。

令和2年度 第13回通常総会開催

NPO法人百年の森づくりの会の令和2年度第13回通常総会は、新型コロナウイルスの感染防止のため、必要最小限の人数により、6月7日(日)さいたま市市民活動サポートセンターにおいて開催されました。

当日は、平成31年度(令和元年度)事業報告・収支決算案、令和2年度事業計画・収支予算案を審議いただき満場一致で原案通り承認されました。

今年は創立20年の節目ということで、感謝の気持ちを込めた活動を計画しておりましたが、4月からこの総会までの事業活動は全て中止とさせていただきました。

また、例年総会終了後、記念講演会・懇親会を開催しておりますが、残念ながら今回は中止とさせていただきました。

長瀬宝登山下り活動報告

3月2日(月)

3月14日(土)に予定していた、ブナ苗木仕立、移植、植え付け作業を、3月6日(金)までに繰り上げて、苗畑を引き渡し、南側の神社の境内も清掃して、神事が挙行出来る様にしてください。と一地主と神社から新型コロナウイルスの為に繰り上げて欲しい一要請された。

急遽3月5日、6日で掘起し苗仕立て、植林場所への移送作業。7日、8日で植林作業という段取りを承認してもらいました。それにはユンボという重機とオペレーターが必要です。

全体の手配を2日(月曜日)中に済ませました。



3月5日 朝、作業前の全景

3月5日(木) ユンボとオペレーターとトラックでブナ苗木50本を仕立てて、森林サポーターズクラブの植林予定地近くの杉林に持込、寝かせ込みました。



3月6日 作業終了時の参加者

3月6日(金) 理事長以下8名で作業、ユンボで掘起し、根っこを整えて、養生、同時に枝も整える。夕方までに樺苗99本処理して、植林地に移送した。最終、樫22本と檜3本、楓2本をトラックに積み込んで作業、終了。畑の残材枝葉を整理、苗木を掘起してできた凹凸の残った土面をユンボの排土板とレイキでならし、神社の境内は、ほうきをかけて返却、7日の祭典の準備に間に合わせられました。



3月6日 掘り起し苗仕立て終了。平坦にした畑全景



3月7日 始業前の参加者

3月7日(土) ユンボとオペレータにまた協力してもらい、植栽計画書の通り植林しました。

新たに10人加わって、6人は樫、檜、楓を防火帯に沿って穴掘り植え込み作業です。残り5人はユンボと一緒に作業を始めたが、機械が3掘で大きな植木を処理してゆくので2人残して3人は作業道沿いにブナを手掘りで植林作業にまわりました。ユンボが9割方植林に大活躍、夕方までめいっぱい作業して終了。ご苦労様でした。5人は、野澤屋に宿泊。



3月7日 持込の苗車載全景

3月8日(日) 本日10人、残った苗樫の木含めて27本お昼までに作業は、大方終了したのですが4WDの軽トラックが平行道のぬかるみにはまってどうにも脱出出来ず13時半までかかって小室氏の4WDで引っ張り脱出できて一連の作業終了。ご苦労様でした。

3月5日～3月8日迄

本当に短時間で上手に苗仕立から植林が終了しおかげで長瀬の苗畑も完全に苗がなくなり元の地主に畑を返せました。

長い間畑を宮澤様ありがとうございました。感謝!!

5月10日(日) 新型コロナウイルスの感染防止のため中止にいたしました。

6月21日(日) 晴れ メンバー 4名参加

新型コロナウイルスの三密の影響が少ないことから、活動を再開しました。コロナの影響で参加者は4名と少ない人数でしたが、東側急斜面の広葉樹林帯の下草刈りを実施しました。

長瀬宝登山下草刈りに例年参加下さっているベテランの方々でしたので3時間みっちり大鎌を振るいました。

7月19日(日) 晴れ メンバー 10名参加

新型コロナウイルスの感染防止に十分注意しつつ、2m以上の間隔をあけて作業を行いました。今回は10名と大勢の方に参加を頂き、前回の東側急斜面の広葉樹林帯にて下草刈りを実施しました。当日は大変な夏の暑さでしたが水分補強をしつつ、2時間半作業を行い、山ザクラの下部にあたる広葉樹の下草刈りをほぼ予定通り終了することができました。

8月23日(日) 曇り メンバー11名参加

例年ですと8月の下草刈りには三井住友海上火災保険(株)の社員の皆様が大量参加下さっていますが、今年は新型コロナウイルスの感染防止のため不参加となり、会員11名にて下草刈りを予定通り行いました。

9時にケーブル山麓駅下広場に全員集合。小林理事長の挨拶を頂き、野澤常務理事から作業手順と留意事項を伝えたと植林地へ入りました。

天候が曇りとはいえ、夏の暑さの中、汗だくになりながら、今回はつつじを植栽した箇所の下草刈りを実施しました。参加者は精鋭ぞろいですので、2時間半の作業で順調にはかどり無事終了することができました。

皆様、ご苦労様でした。



3月8日 植栽完了後ハプニングを解決した写真



8月23日 参加者と作業風景



大洞沢

和名倉百年の森 第40号 2020年10月1日発行

発行者：NPO法人百年の森づくりの会 小林公彦

NPO法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9階

さいたま市市民活動サポートセンター内 メールボックスA-71

TEL/FAX：0480-22-3131

<http://www.100nen-forest.org> e-mail：info@100nen-forest.org